

NGP協同組合、第20回通常総会を開催

選ばれるグループであり続けるために 「お客様第一」の理念の基、 さらなる発展を目指す

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月21日、プレミアホテル-TSUBA KI-札幌（北海道札幌市）において、第20回通常総会を開催しました。

冒頭、挨拶に立った小林信夫理事長は、本年1月14日に大石一彦名誉顧問が逝去されたことに触れ、哀悼の意を表しました。その上で、「大石名誉顧問はNGPの創設以来、その卓越した才能と尽力によりNGPグループを日本一の組織に作り上げた功労者です。大石名誉顧問のカリスマ性、ビジョンと情熱がなければ、今のNGPグループは存在していません。大石名誉顧問が掲げたNGP三大信条に基づき、お客様から選ばれ続け、そして社会からも選ばれ続けるグループであり続けるよう、全組合員で精進していきましょう」と、大石名誉顧問の功績を賞賛するとともに、その理念の体現によるさらなるグループの発展を組合員に呼びかけました。

グループの発展に向けて 新たな表彰制度を構築

総会終了後には、支部及び組合員各社の取り組みに対する表彰式が開催されました。

クレーム発生率の低い組合員企業に対する表彰では、商品発送点数が少ない会社のクレーム発生件数・率が著しく低くなるケースがあることを考慮して、昨年度までは発送点数がグループ平均以上の組合員に表彰する対象を限定していました。一方、NGPの商品が高品質を維持できるのは、

全組合員の協力があってこそです。そこで今年度からは表彰範囲を拡大し、グループ平均よりも発送点数が多い組合員を対象とした「優秀発送点数部門」、平均よりも発送点数が少ない組合員を対象とした「堅実発送点数部門」を用意しました。さらに、より多くのリサイクル部品を生産・出荷した組合員企業を表彰する「生産部門」、その商品をより多く販売した組合員企業を表彰する「販売部門」も新設しました。

各賞を受賞した支部及び組合員は次の通りです。

<低クレーム率表彰>

■支部表彰：中四国支部

■優秀発送点数部門・1位：福山セコ、2位：クレストパーツ、3位：山一商店、4位：パーツライン、5位：島根オートリサイクルセンター

■堅実発送点数部門・1位：ナカスジオオートパーツ、2位：オートパーツ新居浜、3位：エコパーツ岐阜、4位：草山パーツ、



5位：まこと商会

<生産部門>

1位：空知オートパーツ、2位：しのぶやみどり工房、3位：オレンジパーツ平成、4位：共伸商会、5位：マルトシ青木

<販売部門>

1位：リサイクルガレージケーワン、2位：名古屋解体メイカイパーツ、3位：ハセ川自動車、4位：CRS埼玉、5位：カーグリーコマゼン

NGPは、創立者である大石氏が掲げた三大信条「お客様第一」の理念に基づき、より強固なグループに発展させるため、これからも全組合員が一致団結して、各種事業に取り組んでまいります。



表彰式の様子

NGPとJTP、 大型自動車リサイクル部品の 環境負荷低減効果に関する産学共同研究を開始 ～カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーを推進～

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合と日本トラックリファインパーツ協会（新井栄代表理事、JTP）は、富山県立大学（富山県射水市）工学部機械システム工学科・森孝男名誉教授、山田周歩講師、明治大学（生田キャンパス：神奈川県川崎市）理工学部機械情報工学科・井上全人教授との産学共同で「大型自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」を開始しました。

【研究会の名称】

NGP×JTP大型自動車リサイクル部品産学共同研究会

【研究テーマ】

大型自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究

リサイクル部品は、採掘した天然資源を加工して生産する新品部品と比べて大きな省資源・省エネルギー効果があり、CO₂削減効果も期待できることから、カーボンニュートラルに貢献するとともに、サーキュラーエコノミーを推進する製品と言えます。

JTPは、トラックに特化した唯一のリサイクル団体として、使用済みトラックの解体・リサイクルを行うとともに、使用済みトラックから取り外した部品から生産した大型自動車のリサイクル部品の流通を担っています。自動車業界がカーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーへの転換を進める中で、大型自動車のリサイクル部品が環境負荷削減に大きく寄与することを示し、その普及拡大を目指しています。

一方、NGPは2013年5月より富山県立大学と明治大学との産学共同で「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」を行っており、部品の重量・素材調査や生産工程の調査等を行ったデータをもとに、LCA*ソフトを使用しておもに普通自動車のリサイクル部品利用によるCO₂削減効果を算出しています。

JTPの持つ大型自動車の知見と、NGP・



調印式の様子。日本トラックリファインパーツ協会・新井栄代表理事（左から4人目）、NGP・小林信夫理事長（同3人目）

富山県立大学・明治大学とでこれまで研究してきた知見を活かすことで、大型自動車リサイクル部品の環境貢献度を数値化し、その価値を高めて自動車リサイクル業界全体の発展に寄与するべく、研究を開始することとなりました。

今回の提携について小林理事長は「この共同研究の目的はリサイクル部品を利用することによって得られるCO₂削減効果を定量的に測定し、その結果を広く社会に公表することで地球環境に貢献することです。特に大型自動車においてリサイクル部品が果たす役割は非常に大きく、部品の再利用を促進することで、製造から廃棄に至るまでの環境負荷を大幅に低減できる可能性があります。我々はおもに乗用車を主体として研究を行っており、大型自動車を得意とするJTPと協力することで、すべての自動車に対して、具体的な数値を元にリサイクル部品の環境価値を示すことを目指しています。この研究成果を通じて、業界全体がリサイクル部品の利用促進により一層取り組み、環境型経済の確立に貢献することを期待しています」と想いを述べました。

JTPの竹中優一専務理事は、「JTPの運営するトラックリサイクル部品システムであ

るらくだネットに今回の研究成果を実装し、加盟店が見積書や請求書などを通じて、お客様に対するCO₂削減効果の見える化ができるようにすることが、ファーストステップであると考えています。そこに至るまでには、リサイクル部品を生産する際に発生するCO₂と、新品部品を生産する際に発生するCO₂を調査し、新品部品との比較でリサイクル部品のCO₂削減効果値を算出する必要があります。まずは、トラックのキャビンに対する調査研究から開始します。キャビンは外装内装などの複合部品であり、キャビンを調査研究することは複数の部品を調査研究するのと同じこととなります。そのため、キャビンの調査研究を最初に実施することで、今後全体の工数を短縮できると考えています。3月ごろを目処に完了させ、4月ごろには研究成果の第1弾として公表できる見込みです。その後は売れ筋上位7割の部品を調査し、1年半から2年程度を目処にシステムへ実装し、活用していく予定です」と、今後の計画を発表しました。

*LCA（ライフサイクルアセスメント）＝部品を生産する時に発生するCO₂だけではなく、部品を作るための資源採掘から、原料生産、部品生産、使用、処理までライフサイクル（生涯）、アセスメント（評価）する手法のこと。

日本自動車リサイクル部品協議会、 「オールリサイクルパーツネットワークに関する合意書」を締結

自動車リサイクル部品流通の活性化で、 ユーザー価値の向上及び カーボンニュートラルへの貢献につなげる

日本自動車リサイクル部品協議会（佐藤幸雄代表理事、JAPRA）は10月16日、オールリサイクルパーツネットワーク（ARPN）の運営等に関する記者会見を開催しました。

JAPRAは自動車リサイクル部品流通団体による組織で、NGP協同組合も加盟しています。ARPNとは、JAPRAに所属する自動車リサイクル部品流通団体及び各団体の所属会員が利用する自動車リサイクル部品在庫共有システム会社が、互いの部品共有システム同士をデータ連携することで、団体・流通システムの垣根を超える自動車リサイクル部品の相互流通ネットワークです。

自動車リサイクル部品は新品部品の利用と比較してCO₂削減効果があり、さらに安価に修理ができるという利点から利用されています。しかし、昨今の配送費用の高騰により、遠方にある部品を取り寄せる場合には運賃が増加し、全体の費用が上昇してしまうことから、近隣地域から部品を調達する必要性が高まっていました。

これまでは各団体が利用する在庫共有システムにおいて、データ連携が出来ていない部分があったことから、近隣にある他団体の商品を提案できずに、自動車リサイクル部品業界最大の顧客である自動車修理工場や、環境面、経済面からリサイクル部品を活用したいと考えているカーユーザーの選択肢が限定されるという課題がありました。このような課題を解決するべく、各自動車リサイクル部品団体同士が協力し、互いの在庫を公開して近隣地域の供給量を増やすことが必要だと考え、ARPNの実現に向けて取り組んできました。

JAPRAは昨年4月に記者会見を開催し、ARPNの創設について発表して以降、その本格運用開始に向けて会員間で協議を続けてきました。そして今年7月に会員間で「オールリサイクルパーツネットワークに関する合意書」を締結し、ネットワークの運用ルールなどを確認しました。

記者会見において、佐藤代表理事（NGP会長）は「各団体に所属している会員企業



記者会見の様子

はそれぞれ同業者であり、ライバルです。そのため、これまで各団体の在庫を共有する構想が提案されても、なかなか実現に至りませんでした。しかし現在、自動車リサイクル業界及びカーアフターマーケットを取り巻く環境が大きく変わり始めています。その中で、今まで通りの取引形態を続けていては、時代に取り残されるのではないかという危機感があります。そこで、エンドユーザーにリサイクル部品の活用を推進するという業界の使命に立ち返り、ARPNの誕生が実現しました」と、ARPN開始の経緯を説明しました。

その上で、「この共有ネットワークを活用することで、納品率の向上や納期の短縮が可能となり、ユーザーがリサイクル部品を使用しやすい環境を構築することができます。ARPNのスタートは、2025年2月上旬を予定しています。ARPNの開始により、自動車リサイクル業界は大きく変わってきます」と、ARPN開始による意義を示し

ました。

続いて服部厚司副会長（ビッグウェーブ代表取締役）が、「ARPNの実証実験は昨年7月にすでに開始しており、その後運用ルールの見直しなどを進めてきました。一方で昨年10月から開始されたインボイス制度、今年4月から完全義務化された電子帳簿保存法など、法改正等へのシステム対応も必要となりました。これらのシステム対応は11月中に完了する見込みで、その後改めて実証実験を進め、システムの正常稼働を確認した上で、本番運用をスタートする計画です」と、これまでの開発経緯及び今後の計画を示しました。

同ネットワークの活用により、修理・整備工場の皆さまにより幅広いリサイクル部品の提案が可能となります。NGPは、今後もCO₂削減効果の期待できるリサイクル部品の流通拡大に取り組み、カーボンニュートラルやSDGs、サーキュラーエコノミーの実現に貢献してまいります。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和6年9月：

1,936t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和6年9月：

0.4t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品をきむと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

NGP、第16回香川県豊島環境保全・再生活動を実施 岡山大学との産学連携による植生回復活動などに取り組む

NGP協同組合は10月10・11日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を実施しました。第16回目となる今回は、前回に続き「岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授との産学連携による豊島植生回復活動」と「オリーブ収穫」、「不法投棄現場見学」を行いました。

岡山大学との産学連携による植生回復活動では、同校が豊島の植生回復について研究している区画や不法投棄現場を見下ろす展望台へと続く階段横のエリアを整備しました。階段横の整備は今後も継

続し、豊島に自生している植物を植えた「見本園」とする予定です。

豊島で栽培・収穫されたオリーブから作られるオリーブオイルなどの販売収益は、瀬戸内オリーブ基金の活動資金となり、豊島の環境保全活動や3Rの大切さを後世に伝えるために利用されています。近年少子高齢化が進み、人手が足りない状況であることを受けて、NGPはオリーブの収穫を毎年支援してきました。今年は異例の暑さが続いたため、オリーブの実りがあまり良くありませんでしたが、それでも2日間で「58.95kg」の収

穫を達成することができました。

NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金、岡山大学と協力して豊島の環境保全・再生活動に取り組んで参ります。



展望台に続く階段横の整備作業の様子

NGP、瀬戸内オリーブ基金へ寄付金目録を贈呈 豊島の環境保全・再生活動を支援

NGP協同組合は10月21日、瀬戸内オリーブ基金に対し、寄付金目録を贈呈しました。

昨年に引き続き6回目となる今回は、NGP協同組合のサステナブル委員会・伊地知志郎担当理事、岸本恭秀委員長、春山伸基副委員長から、瀬戸内オリーブ基金の岩城裕理事長に寄付金目録を贈呈しました。

瀬戸内オリーブ基金は、産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに設立されたNPO法人で、豊島をはじめとした瀬戸内海エリアの自然環境を守り、再生することを目的に活動をしています。

NGPは2019年に宣言したSDGsへ向けた取り組みの一環として、使用済み自動車買い取りサービス「廃車王」で引き取った車両台数に応じた寄付金、「廃車王」全加盟店に設置する募金箱で集めた募金、NGPで販売するリユース部品の利用によるCO₂削減量に応じた寄付金を毎年オリーブ基金へ贈呈しています。

これまでNGPからの寄付金は、豊島事件の歴史を伝える「豊島のこころ資料館」の外壁補修、電気配線の引き直し、屋根の補修などに活用されてきました。NGPは今後もオリーブ基金の活動を支援し、豊島の環境保全・再生と「豊島事

件」を風化させず後世に伝えるための環境教育に協力してまいります。



NPO法人瀬戸内オリーブ基金・岩城裕理事長（左から2人目）とNGP協同組合サステナブル委員会・伊地知志郎担当理事（左端）、岸本恭秀委員長（右から2人目）、春山伸基副委員長（右端）

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
九州	株式会社オートパーツ伊地知 熊本営業所	移転	〒860-0812 熊本県熊本市中央区南熊本4丁目6番9号 南熊本実業ビル4-D	2024年10月25日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>